

東京岩高会 創立60周年記念会報

第58号

平成28年7月30日

三迫川輕部川への取水堰近くの桜並木
(写真: 土井 祐之 S54 年卒)

東京岩高会
創立60周年記念会報

2016年
第58号

平成二十八年七月三十日発行

発行人

宮城県岩ヶ崎高等学校同窓会東京支部 東京岩高会 TEL 03-3912-7967
〒114-0004 東京都北区堀船 1-15-10705 支部長 佐々木くに子 (有第コミニケーション印刷)



編集後記

東京岩高会との出会いは昭和53年(1977年)上京間もない18歳の時で、それから39年になります。その後、24歳から29歳までネパールとヨルダンでの国際協力の仕事で日本を離れた期間を除くと、総会には9割程は出席したでしょう。このことがご縁で26年卒の小野寺喜美夫さん・伊藤七郎さん・栗原孝允さん(ご逝去)、28年卒の伊藤末治郎さん・及川博子さん、35年卒の鎌田正總さんなどの先輩方とお知り合いになりました。

鎌田正總さんとは大変懇意にさせて頂き、鎌田さんの弁護士事務所によくお邪魔しそれも夕方に、晩御飯をよくご馳走になりました。またご自宅の引越しの時には同級生を連れて手伝いに行ったことも記憶しています。そして、法律の相談にも何度かさせて頂きました。

長い月日が経ちましたが、今でも総会や新年会等で先輩方とお会いし、当時と変わらずお話できていること嬉しい限りです。

熊谷英雄前支部長から佐々木くに子支部長まで、幹事長として14年務めたことで多くの同窓生の方や地元の高校関係者の方ともお会いすることが出来ました。

インターネットやSNSが広がった現代、実際にお会いしなくても、情報や連絡は取り合うことはできますが、年に何度かお会いし近況を報告し、自身の出来事を話してみることも、「何かいいのだなあ」と感じるようになっていきます。堅苦しくなく、畏まらず、フランクなお付き合いをこれからも東京岩高会を通じて続けていければと思っています。

53年卒 長沼和秋

総会開催案内

創立60周年を迎えることができました。
この記念すべき機会に多くの方々の
ご参加をお待ちしております。

第60回 東京岩高会総会

平成28年 11月26日(土曜日)
午前11時開会(上野公園グリーンパーク)

詳細は2ページに掲載



第60回 東京岩高会 記念総会 開催案内

1. 第60回 東京岩高会 記念総会のご案内

今年は、東京岩高会が設立され60年を迎えます。これも諸先輩方・ご関係の皆様方のお支えがあつてのことと存じます。御礼申し上げます。

さて、特別プログラムでは、熊田かほりさん/平成15年卒(日本琵琶コンクール1位)による琵琶演奏を予定しておりますので、たくさんの方々のご参加をお待ちしております。

- (1) と き：平成28年11月26日(土) 11:00～15:30
- (2) と ころ：「グリーンパーク」
東京都台東区上野公園1-59(上野公園西郷銅像横)
Tel 03-3828-5571
- (3) 会 費：男性:7,000円 女性:6,000円
※学生で初めて参加される方はご招待(無料)、2回目以降は2,000円
- (4) 出欠連絡：9月30日までにご連絡を頂きますようお願い致します。
※出欠の変更はその後も受付けますので、下記または関係役員までご連絡下さい。
支部長:佐々木くに子 090-7828-1623
幹事長:長沼和秋 090-5339-8141
- (5) 還暦の会：今年は50年卒が対象であり、当日は当会よりお祝いを進呈いたします。
お誘い合わせの上お越し下さいますようご案内申し上げます。

2. 東京岩高会 年会費ご協力のお願い

皆様方から頂いた貴重な年会費が活動の支えになっております。昨年は173名(6月30日現在)の皆様方から浄財を賜りまして、真に有難うございます。

本年も引き続き倍旧のご協力の程、宜しくお願い致します。

- (1) 年 会 費：3,000円
- (2) 振込期限：総会開催前の10月31日までに同封の郵便振替用紙により最寄りの郵便局で振込みをお願いします。なお、お振込みにあたっては、ATMをご利用頂くと手数料が軽減されます。

東京岩高会 支部長 佐々木くに子
幹事 一同

明日に繋ぐ

繋がる同窓会



佐々木くに子
同窓会
東京支部長
(就任H20/11～)
S37年卒
鳥矢崎出身

会員の皆さまにはお変わりなくお過ごしのこととお喜び申し上げます。さて、当会はお陰さまをもちまして、今年は創立60周年を迎えることになりました。会員の皆さまのご支援ご協力の賜物と役員一同心より感謝申し上げます。昨年の総会におきましては、新しい風が吹きました。皆さまと共に長い間、念願しておりました夢の第一歩が叶いました。平成26年卒8名、27年卒2名のニューフェイスが会場にやって参りました。10名の若者たちを見つめる先輩方の表情は、隠しきれない喜び満面でした。同じ学び舎としてふる里を共有する同志は、いつときにして歩み寄り、語らいが溢れました。東京岩高会を設立された昭和26年卒栗原孝允先輩ご自慢の作品で平成26年卒と「絆」で繋がる場面があり大喝采でした。母校岩ヶ崎高校と同窓会の関係は、他に類を見ない程の緻密でスムーズな連携です。高



上京生徒と東京支部長との顔合わせ(H28.2/29)

橋義典前校長先生初め同窓会担当先生、当時の担任教諭そして本部同窓会葛岡重利会長様の強力な後押しを得まして、関東方面上京者との顔合わせを学校側で組み入れて下さり実現に至りました。関東方面への上京者は、昨年は22名、今年は25名の方々と顔合わせとなりました。「明日に繋ぐ、繋がる同窓会」と若いエネルギーの参加に、皆さんのお力をお借りしまして努めて参ります。

昨年の総会には高橋義典校長先生はじめ先生方、同窓会葛岡重利会長様はじめ同窓会役員の方々、仙台支部高橋清志支部長様のご出席を頂き、また近隣の築館高校同窓会佐藤公輝東京支部



長様はじめ役員の方々、東京迫桜会菅原久雄会長様はじめ役員の方々のお客様にも御出席頂き交流を深めました。昨年の岩ヶ崎高校は、野球部が全国大会県予選に於いて49年ぶりのベスト8と快挙のニュースが新聞紙上、同窓会が湧きました。今年は、岩ヶ崎高校同窓生が、世界の祭典リオデジャネイロオリンピック出場決定です。平成29年秋山輝吉さんが岩ヶ崎高校初のオリンピック選手誕生です。(20ページ参照)4月27日、岩ヶ崎高校主催による壮行会が挙行され、凛とした姿勢で「金を目指します」と全校生徒の前で決意を述べられました。岩ヶ崎高校正面に懸垂幕(同窓会本部提供)が堂々と掲げられております。秋山選手オリンピック出場は、世界レベルであり、地元の青少年には憧れであり、栗原地域中でアピールして頂きたいと望みます。現在、どこの地域に於いても年々、少子化、高齢化そして過疎化問題が加速していると言われます。ここは一つ、秋山選手のオリンピックニュースを母校やふるさと活性的救世主と応援の声高らかに元気を頂きましょうか。最後に、事業にもたくさんの方々よりご理解ご協力頂きましたことに心よりお礼を申し上げます。

今年の記念総会は50年卒の還暦の会であり、熊田かほりさん(平成15年卒)の日本一の琵琶演奏が御座います。まだ〇〇〇?があるかも知れませんが。ふるさとを心を活かす同窓会として、昨日までを、そして明日を語りにつけて下さい。11月26日(土)11時、上野の森でお待ちしております。



第59回総会受付をご担当なさった皆様方



担当 菅原由美子さんと49年卒の方々

年々進化する会報 献身的な取り組みに敬意



葛岡 重利
岩高同窓会会長
(就任H25/8~)
S41年卒
鷺沢出身
旧鷺沢町長

平成27年度の同窓会入会式を2月29日に執り行い、卒業生113名を同窓会員として迎えることができました。今回も東京支部から佐々木支部長、佐藤副支部長にはわざわざご出席を頂き、支部の活動状況を含めご挨拶を頂きました。終了後には、昨年に引き続き東京方面に生活の場を移される新卒者との懇談の場を持たれました。東京支部の継続した取り組みに頭が下がります。

昨年は、母校野球部が夏の甲子園予選宮城県大会でベスト8に入り、49年ぶりの快挙に学校も同窓生も興奮しました。

また、平成2年に卒業し、宮城県警に勤務されている秋山輝吉さんが、1月開催された射撃「ラピッド・ファイヤピストル」アジア予選で優勝し、日本代表

選手としてリオデジャネイロ五輪に出場することになりました。歴史的な快挙であり、2月26日母校に懸垂幕を掲げご挨拶いたします。

げ祝意を表しました。4月27日には、体育館で秋山さんの五輪出場の栄誉を称え、在校生と共に壮行会を開催しました。佐々木支部長にもご出席頂き、激励のご挨拶と激励品を贈呈され壮行会に花を添えていただきました。リオ五輪での金メダル獲得を同窓会あげて応援したいものです。

今年は東京支部におかれましては、第60回という記念の総会を迎える年でもあります。これまで先輩が築いてこられた同窓の絆を一層強くしようと

母校を取り巻く環境も年々変わって参ります。母校との連携を密にし、「秋

山選手のオリンピック出場！」という大きなニュースを共有しながら同窓会の輪を広げる絶好の機会だと思っています。

東京支部の益々のご発展と皆様のご健勝とご活躍をお祈り申し上げます。

ご挨拶いたします。



秋山輝吉さん壮行会にて(前列左:葛岡会長 右:秋山さん)

思いがけない出会い



高橋 清志
同窓会
仙台支部長
(就任H25/04~)
S44年卒
岩ヶ崎出身

短い時間ではございましたが、思いがけない方と出会いお話を交わすうちに、少年の頃、若かりし青春の頃の懐かしい記憶が蘇り、思い出に一人ふけながらの仙台への帰路でございました。皆様も同様の出会いがあったかと思ひます。

さて、すでにご承知の方もいらっしゃるかと思いますが、岩ヶ崎高校同窓生で宮城県警察本部に勤務されている秋山輝吉(あきやま・てるよし)さんが、ライフル射撃男子ラピッドファイアピストルでリオデジャネイロ五輪に出場することとなりました。本人はW杯優勝経験もあり「どうせチャレンジするなら高い目標、一番輝かしい金メダルを取りたい」と世界の頂点を見据えておられるようでございます。是非、本人の夢が叶うよう東京岩高会の皆様方の応援よろしくお願いいたします。

さらに、この総会では、思いがけないお二人との出会いがありました。お一人は実家の近所に住んでおられ、私の子どもの頃に随分とかわいがっていた方で50数年ぶりの思いがけない出合いでございました。もうお一人は40年ほどお会いしていない高校の同級生の妹さんで初めての出会いでございました。



仙台支部総会にて(平成27年10月24日)

目次

東京岩高会総会開催案内

【ご挨拶】

宮城県岩ヶ崎高等学校同窓会

東京支部長 佐々木くに子

同窓会会長 葛岡重利

仙台支部長 高橋清志

宮城県岩ヶ崎高等学校

学校長 吉田玲子

前総務部長 小畑征也

菊池明日香 在校生(3年生)

【総会報告】

第59回東京岩高会総会

開催報告・総括 長沼幹事長

還暦の会出席 渡部田利子(49年卒)

還暦の会出席 松田清子(49年卒)

年会費・会計報告 山本会計幹事

【話の玉手箱・会員の窓】

築館高校同窓会東京支部長

東京迫桜会会長 佐藤公輝

岩魚会 菅原久雄

総会に参加して 吉野玲子(28年卒)

還暦祝いの会 梶本敬(48年卒)

上京した新卒の声 菅原俊雄(50年卒)

秋山選手オリンピック出場 新卒の皆様

佐々木くに子

【60周年記念ページ】

60周年を迎えるにあたり

歴代支部長のご挨拶 佐々木くに子

歴代支部長のご挨拶 小野寺喜美夫(26年卒)

歴代支部長のご挨拶 伊藤七郎(26年卒)

歴代支部長のご挨拶 伊藤末治郎(28年卒)

歴代支部長のご挨拶 鎌田正聰(35年卒)

歴代支部長のご挨拶 菅原 一(31年卒)

前同窓会会長 芳賀康雄(37年卒)

元学校長 岡崎智徳

元学校長 大畑典子

元学校長 伊藤芳春

元学校長 蘇武徳行

前学校長 高橋義典

現教諭 秋山賢悦(61年卒)

前教諭 古内真衣子(48卒)

目で見える60年のあゆみ① 32年

目で見える60年のあゆみ② 40年

目で見える60年のあゆみ③ 61年

事業基金協力者ご芳名

【栗原孝允さんを偲んで】

栗原さんとの思い出

【編集後記】

長沼和秋(53年卒)

キャンパス春秋



菊池 明日香
3年生
生徒会副会長

記録を残しています。文化部でも美術部の作品や吹奏楽部の演奏に賞賛の声を頂いています。

大地に恵みをもたらす春の雨が降る中、今年も多くの新入生が入学して来ました。入学式が終わり、対面式、新入生オリエンテーションと忙しい4月が過ぎました。学校では5月には支部総体があります。6月には定期考査があり、テスト前になると職員室前の机は勉強する生徒で一杯になります。その他、自習室や、毎朝に視聴覚室で行われている愛宕塾が利用されます。多くの生徒が自分に合った様々な場所で自学自習の向上や受験対策の場に利用しています。また、毎朝の朝学習では国語、数学、英語、小論文の基礎的な学習を行っています。そして、行事など全てに「最後」行っています。生徒全員が目標進路を達成できるような環境があるところが岩高のいい所だと思います。

また生徒は学業だけでなく部活動にも力を入れています。昨年度は野球部が甲子園予選でベスト8、陸上部の高跳びで県新人大会ベスト8など多くの

近年、岩ヶ崎高校の生徒数は減少傾向にありますが、それでも活気にあふれ、建学の精神「尚志育英」のもとに文武両道、頑張っています。今年度の一年生は鶯沢校舎の1クラス分人数が減ってしまいましたが、対面式では先輩からの無茶ぶりに答えたりなど、元気で明るい雰囲気伝わって来ました。そんな1年生が入学して来てくれて本当に嬉しく思います。2年生は、すっかり高校生活に慣れ、物怖じせず自分の意見を主張できています。3年生から徐々にいろいろなものを引き継ぎ、次期岩高を作っていくって欲しいと期待しています。

3年生はいよいよ受験生の年です。一人一人が自覚を持ち、全員が進路を達成できるよう頑張っていきたいと思いがつくようになってきます。残りの学校生活を目一杯楽しみ、たくさんの思い出を作っていきたいと思います。同窓生の皆さん、これからも岩高をよろしく願います。



第59回東京岩高会総会開催される

第58回東京岩高会総会は秋晴れの中、平成27年11月28日(土)午前11時、上野公園グリーンパークにて開催されました。同窓生と来賓 総勢 113名の出席を頂き、今年も100名を超える会となりました。

(順不同・敬称略)

同窓会	会長	葛岡重利	〃	総務部長	小畑征也
〃	副会長	佐藤てる子	〃	事務局	秋山賢悦
〃	監事	渋谷建男	〃	事務局	後藤正憲
〃	常任幹事	加藤洋	〃	小野寺健(迫商業高校)	
〃	常任幹事	土井祐之	〃	亀山瑠依(田尻さくら高校)	
〃	仙台支部長	高橋清志	〃	支部長	佐藤公輝
岩ヶ崎高校 校長	高橋義典	〃	〃	前支部長	熱海光顕
		〃	〃	事務局長	阿部重一
		〃	〃	幹事	千田英雄
		〃	〃	幹事	玉井順一
		〃	〃	迫桜東京会	
		〃	〃	支部長	菅原久雄
		〃	〃	副支部長	亀山晶子

其れ怒か



子貢聞いて曰く、一言にして以て終身之を行なう可き者有りや、と。

子曰く、其れ怒か。己の欲せざる所は、人に施すこと勿れ、と。

【現代語訳】

子貢が質問した。「生涯、行なうべきものを、一文字で表わせましょうか」と。老先生はお答えになられた。「それは〈恕〉だな。自分が他人から受けたくないことは、他人にもしないことだ」と。

〃 事務局長 阿部武寿

今年の「還暦を祝う会」は49年卒が対象で、地元栗原市及び名古屋から出席も頂き11名が集いました。

今年の特別プログラムは、10年振りとなる学生の出席があり、平成26年卒(8名)・平成27年卒(2名)のフレッシュの顔ぶれで、会場は新婦に驚きと喜びが溢れ、初めは、小畑征也先生、秋山賢悦先生、後藤正憲先生、亀山瑠依先生からの現況報告、引き続き小畑征也先生の説明のもと、母校の様子と平成26年卒の卒業アルバムからのスライドの上映、特に49年振りとなる甲子園県大会ベスト8進出劇も紹介されました。

乾杯は、還暦を迎える同窓生を代表し

49年卒 菅原由美子様からの乾杯で懇談が始まりました。

80歳/傘寿(29年卒)・77歳/喜寿(32年卒)70歳/古希(39年卒)・60歳/還暦(49年卒)の節目を迎えた出席された同窓生へ高野山の弘法大師様の御札が贈られました。

そして、栗原孝允顧問(26卒)によるマジックショー、これが見納めになるとは、予想もしえないことでした(H28・2・10 癌により82歳にてご逝去 謹んでご冥福をお祈り申し上げます)

最後は、出席者が腕を組み合い「高校3年生」「ふるさと」を歌い、正に「絆」のラインとなり、応援団を務めた卒業生で「フレーフレー 岩高」と校歌斉唱を行い大歓喜の渦が巻き起こった会となりました。

たまたま目にした論語の言葉です。「恕」って!? 調べてみると「ゆるす」と「他人への思いやり、自分のことのように、他人のことをおしはかる気持ち」と。「はっ!!」としました。日頃、相手の立場に立って思ってみることの少なさに比べ、「自分さえ良ければ…」的な多かったこと。昨年末、夫が体調を崩しました。これまで大きな病気をすること

もなく、リタイア後は、家事や町内会のこまごましたことも担ってくれました。週4日仕事をしていた私にとって、とてもありがたい存在でした。仕事から帰ると夕食ができていて、まるで「魔法のテーブルかけ」があるようです。少々の残業もなんのその、心置きなく仕事をすることができました。ところがそれが一変。元気印の夫はどこへや

鶯工の思い出



私は、昭和49年3月に鶯沢工業高等学校(以下、鶯工)電子科を卒業しました。その母校も、生徒数の低減に伴い、岩高へ統合となり、ついに平成23年3月廃校となりました。

東京岩高会につきましては、友人(熊谷ふじえさん)からの勧めもあり、3年程前に入会しました。

当初は「おじゃま虫」的な感がありましたが、回を重ねる度に知人も増え、高校の垣根を超え、今では、参加することが楽しみになってきた今日この頃です。

私が鶯工を選んだ理由は、今思えば、自宅から近いということ、特に電子に興味があった訳でもなく、「高校くらいは行った方が良い」という両親の勧めがあったからです。ところが電子科は、女子だけのクラスで、しかも3年間も同じ顔ぶれ、その絆は、現在も続いています。卒業して、40数年になりますが、時には恩師も交え、2年に一度クラス

会を開いています。

入学して弓道部に入部しましたが、

その弓道場が細倉にあり、駒場駅(鶯工前)から細倉まで、電車で通うハメになり、自宅から近いという理由は、もうくも崩れてしまいました。私が入部した時、女子部員は3年生が数名、2年生は一人もおらず、1年生が新人大会に出ることになり、弓道の基礎である、胴造りと腹筋運動等、いきなりの特訓・特訓。当時は、楽しいというより、逃げ出したい気持ちが大きかったと想います。それでも大会では、5人で1チームの「大前」(野球のトップバッター、柔道の先鋒)を任せられ、最初の一本は必ず的に当てなければならぬ…というプレッシャーにもめげず、三年間続けました。

人間その気になれば、頑張れると言うことを、そこで学びました。

現在、東京・大田区に居住し、早や40年となります。二人の子供にも恵まれ、さらに昨年5月に孫にも恵まれました。また同年、還暦を迎え、それをきっかけに仕事も辞め、主人と映画・旅行・ウォーキング等を楽しみながら、2020東京オリンピックを元気に迎えることを願って、スローライフを楽しんでいます。



練習風景で本人は真中

クラス会は2段目の真中

同胞の皆様方へ この日の私達の
姿を 笑顔を お届けします。



高
城県岩ヶ崎高等学校
会東京支部

高
第59回
東京岩高会総会

高
第59回
東京岩高会総会

湧き出る笑顔の泉
岩高家族
第五九回東京岩高会総会

No.	号	年	氏名	No.	号	年	氏名	No.	号	年	氏名	No.	号	年	氏名
1			賛助 斎藤 君代	45	S	35	菅原 幸二	89	S	38	只野 和夫	133	S	47	森岡 光子
2			栗駒会 菅原 孝雄	46	S	35	高橋 嘉紀	90	S	39	岩淵 和夫	134	S	47	和久 充
3			宮城 飯田 正量	47	S	35	高松 茂實	91	S	39	氏家 宣彦	135	S	47	佐々木 静郎
4			宮城 飯田 伸雄	48	S	35	内藤 利雄	92	S	39	佐々木 元子	136	S	48	浅野 和優
5			宮城 後藤 仁	49	S	35	早川 満子	93	S	39	蘇武 昌三	137	S	48	岩崎 哲雄
6			宮城 高村 浩子	50	S	35	須田 和恵	94	S	39	芳賀 壽正	138	S	48	宇佐美 弘子
7			宮城 渋谷 力	51	S	35	菅原 千恵子	95	S	40	桑原 盛一	139	S	48	梶本 啓
8			宮城 菅原 弘幸	52	S	35	小柳 典子	96	S	40	高橋 節郎	140	S	48	斉藤 文男
9	S	26	伊藤 七郎	53	S	35	石井 さと子	97	S	40	谷川 桂子	141	S	48	佐藤 久恵
10	S	26	小野寺 喜美夫	54	S	36	大内 敏彦	98	S	41	蘇武 巖	142	S	48	澤田 由紀子
11	S	26	加藤 謹吾	55	S	36	大久保 信子	99	S	42	小川 晶平	143	S	48	高橋 洋
12	S	26	亀井 栄利	56	S	36	加藤 旭孝	100	S	42	河合 礼子	144	S	48	千葉 繁典
13	S	26	栗原 孝允	57	S	36	久保田 信子	101	S	42	高橋 秀男	145	S	48	千葉 正宏
14	S	26	佐竹 章	58	S	36	佐々木 稔	102	S	42	千葉 健二	146	S	48	本田 みき子
15	S	26	佐藤 明	59	S	36	菅原 富夫	103	S	42	千葉 信一	147	S	48	密島 眞夫
16	S	28	伊藤 末治郎	60	S	36	奈須野 栄子	104	S	42	沼倉 則正	148	S	49	熊谷 ふじえ
17	S	28	及川 博子	61	S	36	袋 幸男	105	S	42	宮本 洋子	149	S	49	菅原 由美子
18	S	28	小野寺 美代子	62	S	36	穂積 宏哉	106	S	42	加藤 雅子	150	S	49	成田 千賀子
19	S	28	高橋 昭三	63	S	37	阿部 長生	107	S	43	只野 静志	151	S	49	畠山 純子
20	S	28	早坂 章治	64	S	37	伊藤 克侑	108	S	43	四倉 けい子	152	S	49	松田 清子
21	S	28	吉野 玲子	65	S	37	岩泉 冽	109	S	44	伊藤 税	153	S	49	渡部 由利子
22	S	29	鎌田 匡之	66	S	37	岩淵 洋子	110	S	44	織山 エイ子	154	S	49	斉藤 敏子
23	S	29	谷本 徳子	67	S	37	及川 勝美	111	S	44	佐々木 敏行	155	S	49	真下 由利恵
24	S	29	藤代 實	68	S	37	笈川 くら子	112	S	45	伊藤 初雄	156	S	50	熊谷 純一
25	S	29	水野 満	69	S	37	木下 峰子	113	S	45	大木 貞子	157	S	50	佐々木 幸男
26	S	30	白鳥 吉幸	70	S	37	熊谷 栄子	114	S	45	葛岡 制紀	158	S	50	菅原 俊雄
27	S	30	菅原 正八	71	S	37	栗原 しげ子	115	S	45	高橋 初美	159	S	50	江戸 光代
28	S	30	高橋 次夫	72	S	37	佐々木 くに子	116	S	46	浅野 弘巳	160	S	51	古舘 芳子
29	S	31	菅原 一	73	S	37	真保 清美	117	S	46	五十嵐 光好	161	S	52	鈴木 節子
30	S	31	高橋 貞子	74	S	37	菅原 進	118	S	46	伊藤 光男	162	S	52	高橋 朗
31	S	32	河副 明子	75	S	37	菅原 三千男	119	S	46	後藤 直	163	S	52	高橋 聖
32	S	32	鈴木 俊之	76	S	37	鈴木 晃	120	S	46	佐藤 猛	164	S	52	星 光男
33	S	32	高橋 東三	77	S	37	須田 陽子	121	S	46	佐藤 政弘	165	S	53	高橋 良哉
34	S	32	西島 栄子	78	S	37	高橋 道彦	122	S	46	菅原 正雄	166	S	53	長沼 和秋
35	S	33	木名瀬 五百子	79	S	37	高松 武巳	123	S	46	長沢 斉	167	S	53	山口 真貴
36	S	33	袋 康男	80	S	37	武田 桂子	124	S	46	長瀬 真一	168	S	54	佐藤 隆仁
37	S	34	石井 紀子	81	S	37	千葉 昭一	125	S	46	野口 栄子	169	S	56	阿部 豊
38	S	34	清田 泰子	82	S	37	津田 久子	126	S	46	芳賀 進	170	H	1	須藤 康之
39	S	34	小林 たか子	83	S	37	結城 家寿子	127	S	46	山本 信子	171	H	1	武内 里恵
40	S	34	四ノ宮 信男	84	S	37	吉川 とみ子	128	S	46	和仁 洋子	172			小野寺 亜紀
41	S	34	千葉 辰夫	85	S	37	吉野 久子	129	S	46	鈴木 富樹	173			高橋 千代
42	S	35	岡本 昭雄	86	S	38	岩永 寿子	130	S	47	菅原 修悦				
43	S	35	鎌田 正聰	87	S	38	大関 信輔	131	S	47	関口 洋子				
44	S	35	佐藤 千恵	88	S	38	佐藤 次雄	132	S	47	関 幸子				

6月30日までに
ご協力頂きました
方につきまして掲載
させて頂いております

本年度も多くの皆様方から貴重な浄財を賜り誠に有り難く存じます。賜りました会費は東京岩高会の活動財
源として有効に利用させていただきます。有難う御座いました。 東京岩高会 支部長 佐々木くに子

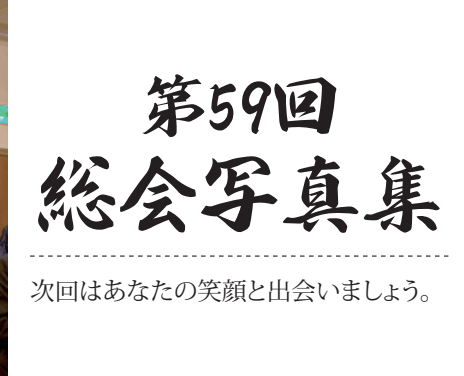
平成 27 年度決算報告（H26/11/01～H27/10/31）

収 入 の 部		支 出 の 部	
項 目	金 額	項 目	金 額
前期繰越金	172,246	総会費用	836,400
総会会費	817,000	新年会費用	106,500
新年会費	79,000	慶弔費	12,259
暑気払会費	98,000	事務用品費	37,903
ご祝儀	50,000	旅費交通費	98,000
助成金	100,000	会議費	96,020
年会費（180名）	575,000	通信運搬費	26,140
広告料	30,000	会報費	358,141
雑収入	132	暑気払会費	114,000
		年会費手数料	14,102
		手数料	606
		本部等総会参加費	43,000
		次年度繰越金	178,307
計	1,921,378	計	1,921,378

平成 28 年度予算（H27/11/01～H28/10/31）

収 入 の 部		支 出 の 部	
項 目	金 額	項 目	金 額
前期繰越金	178,307	総会費用	900,000
助成金 本部から	150,000	新年会費用	100,000
年会費	575,000	暑気払会費用	100,000
総会会費	820,000	会報費	400,000
新年会費	100,000	通信運搬費	30,000
暑気払い会費	100,000	慶弔費	20,000
広告料	30,000	事務用品費	40,000
		旅費交通費	100,000
		年会費手数料	15,000
		会議費	80,000
		本部等総会参加費	50,000
		予備費	118,307
計	1,953,307	計	1,953,307

年会費協力者・収支



互いの母校の発展を願って



佐藤 公輝
建館高校同窓会
東京支部長

私は平成二十六年から築高同窓会東京支部長の任に就いている者です。旧築館町内で生まれ育ち、築高を昭和三十八年に卒業しました。弁護士の仕事を始めてかれこれ四〇年になります。

貴会は、本年、創立六〇周年を迎えられると伺いました。大変おめでとうございます。当築高同窓会東京支部は、戦後は昭和二十五年頃に男子校の同窓会が発足したようですが、昭和四〇年代までは定期的に総会等を開催していた訳ではなく、その後も隔年開催という時期でありますので、実質的には貴会の活動の方が充実していたと思います。

旧築高男子校と築女が合併して男女共学の築館高等学校が誕生して昨年で10年になりました。昨年十月二十三日には創立一〇周年記念式典と祝賀会が開催され、記念誌や同窓会名簿も発行されました。

新築高は草創期の混乱を乗り越え、よ

うやく充実してきているようです。生徒の発案で、芝桜プロジェクトなるものを立ち上げ、芝桜で校舎の周囲を埋め尽くし、将来は栗原市全域に芝桜を広めようという活動を行っております。生徒達は

廃品回収を行って、その売上金を芝桜の資金に充てるということまでやっているそうです。又、佐々木壽徳校長の発案で、ボランティア部を作って生徒全員を所属させ、地域で多様なボランティア活動を実践させています。更に、生徒有志が市内の全中学校に出向き築高の魅力をアピールしています。その甲斐あってか、築高の評価が高まっており、本年度は旧築高築女時代を含めると十五年ぶりに受験生の倍率が一倍を超えた（二・一三倍）ということです。かつての築高築女の時代を知る同窓生からみれば、そんなことで喜んでいるなんて情けないという思いでしょうが、昨今の栗原市の状況では、これは素晴らしい出来事なのです。進学率等では岩高に水をあけられていた築高ですが、これも改善の兆しが見えてきたようです。

元々、生徒数が減少しているうえに、成績優秀な生徒や強いスポーツ選手は仙台や古川に取られてしまうという厳しい現実がありますが、その中で生徒達も先生方も必死で頑張っています。岩

岩魚会



吉野 玲子
28年卒
岩ヶ崎出身
東京都在中

今回、今年3月26日に上野で開かれた岩魚会の写真と一緒に投稿させていただこうとした直前に熊本地震が起きました。

2008年の宮城内陸地震、2011年の多くの方が犠牲になった東北太平洋沖地震などの記憶が昨日のように甦ってきます。震災に遭った人の気持ちや本心に心が痛みます。

また最近では天災だけではなく、バス事故や過激派による無差別テロなど、突然命を絶たれる不憫なことが多いように思います。

そこで改めて岩魚会の写真を見て思うことは皆さんも、きっと波瀾万丈の人生を歩み、この歳ですから1ヶ所2ヶ所は病んでいると思いますが、岩魚会で過去に戻り楽しい時間を過ごせることを私は奇跡に思うのです。いつまでもこの幸せな奇跡が続くことを祈ります。



28年卒同級会

東京岩高会も60周年を迎えるということ、大変うれしく思います。今後もし楽しい出会いと継続を心から願っています。

第59回 東京岩高会に参加して

梶本 啓

48年卒

尾松出身 神奈川県在中

昨年7月頃だったと思いますが「東京岩高会」から、その年の11月28日の総会の案内の封筒が突然、届きました。その会報の表紙には雪を抱く栗駒山のゆったりと横たわる姿があった。私ごと、梶本啓(48年

高の生徒達も頑張っていることと思います。

私共も、同じ栗原の高校の在京同窓会として、互いに母校の益々の発展と故郷

東京迫桜会設立までの歩み



菅原 久雄
東京迫桜会会長
若高31年卒

東京岩高会60周年総会を迎えられますことおめでとう御座います。この様に近隣高校同窓会の交流を持てますことに感謝して参加させて頂いております。画期的な取り組みなど見せて頂きました。

私は若高出身31年卒です。統合以前の話からさせて頂きます。若高の初めての在京同窓会が昭和28年に結成され高女一回卒(昭和8年卒)の女性会長で始めました。第3代まで女性会長が務めました。初の男性会長は平成2年に誕生し、若高60周年記念総会でもあり86名の出席のもと盛大に無事終了することができました。これより平成5年、平成8年、

栗原の活性化を願い、応援しましょう。

なお、貴誌の貴重な誌面に拙文投稿の機会をいただきましたこと、深く感謝いたします。

そして若高同窓会最後は、平成12年9月23日大勢の御来賓がご出席下さり、総勢200余名の総会となりました。特別出演はビリーバンバン(若柳出身の菅原孝兄弟)。唄とトークを交えて進められ、ヒット曲「白いブランコ」が熱唱され時間も忘れるほどでした。「若柳高女校歌」「若柳高歌」を全員で大合唱し青春を思い出しながら、大盛会のうちに総会を終りして解散となりました。

栗原同窓会東京支部にご招待されたのは平成12年、平成13年、平成14年、平成15年と若高同窓会役員が出席させて頂き、迫桜高校在京同窓会設立に向けて話し合いを続けてまいりました。設立総会は平成16年12月5日と決定致しました。栗原同窓会東京支部長遠藤孝治様外役員各氏にご指導頂き迫桜高校在京同窓会が設立でき、現在に至っております。

東京岩高会様には今後ともよろしくお願い致しまして、益々の発展をお祈りしております。



(左:梶本さん 右:菅原さん(ご逝去))

卒、旧姓 松本)は昭和30年3月、栗駒町尾松に生を受け、幼稚園はどういう訳か岩ヶ崎までバス通園。尾松小、尾松中を経て岩高へ進学しました。入学すると幼稚園時代の懐かしい面影が残る何人かと9年ぶりの再会を果たしました。その中の一人が現在、東京岩高会幹事で江戸川高校前にて「くりこまや」を営まれている千葉 正宏君です。部活は「生物部」で蛇の研究では解剖や校舎北側の軒下に強制冬眠をさせたり、シイタケの栽培研究と称し用務員さんの協力のもと、焼きシイタケを堪能しておりました。同期の山内君等が積極的に関わった「スズメの研究」では表彰を受

新聞に載ったことも記憶に残っております。卒業後、仙台の大学に進み4年で無事卒業。その後本社が名古屋の企業に就職。札幌に4年、新潟に5年、東京に6年と、そ

の後も東京に8年住んでいたのに全く存在を知らない状態でした。私の父親が岩高のOBではなかったこともあってか情報が届かなかつたのだと思います。さて、総会当日、上野へは春の観桜、国立博物館や西洋美術館での展示等、年に数回は足を運んでいましたが西郷どんの銅像のあるエリアに行くのは修学旅行以来でした。若干の緊張の中、受付を済ませ会場内に入ると同期の方々の懐かしい顔。談笑のうちに総会が始まりました。ご来賓の挨拶や母校のスライド上映と進むうちにすっかり打ち解けていった次第でした。なかでもマジックショーを披露されていた栗原 孝允さんが私の父と旧知の仲ということを知り、二層の感慨を受けました。今年、東京岩高会が記念すべき第60回の総会を迎えます。当会のことを知りつつも参加に二の足を踏んでいる方がいらついたら今年こそ是非足を運んでみて下さい。岩高時代の思い出や故郷の栗駒に包まれた楽しい時間を共有しましょう。きっと参加して良かった！と思えるはずです。もちろん私も参加を心に決めています。

今回の原稿をメールに添付し送信をした翌日、原稿受け取りの返信とともに写真と一緒に撮った栗原氏が亡くなられたことが記されておりました。

心よりご冥福をお祈り申し上げます。

雑感「還暦祝いの会」と「ソーシャル・ネットワーク・サービス（SNS）」



菅原 俊雄
昭和50年卒業
岩ヶ崎出身

東京岩高会創立60周年、おめでとうございます。東京岩高会をこれまで発展させてこられた諸先輩方、役員諸氏に心から敬意を表します。また、奇しくも今年は私たち昭和50年卒の同窓生が還暦を迎える年でもあり、二重に嬉しく思います。

私たち昭和50年卒の3年5組同級生は今年8月に仙台で、担任の千葉洋先生ご臨席のもと「還暦祝いの会」を開催することにしております。私たち同級会の卒業以来の経過を辿ると、これまで左のとおり5回ほど開かれてきました。

- 第1回(卒20年目)
平成7(1995)年於仙台南
第2回(卒27年目)
平成14(2002)年於エポカ21
第3回(卒35年目)
平成21(2009)年9月於作並温泉

第4回(卒39年目)

平成25(2013)年1月於エポカ21
第5回(卒40年目)
平成26(2014)年1月於秋保温泉

(これ以外にも仙台在住の有志で非公式な集まりが何度か開かれています。)

第1回同級会は33人の出席で盛況でしたが、その後は12、14人のほぼ同じ顔ぶれが続いていました。今年は「還暦祝いの会」と銘打ったこともあり、同級生54人(うち鬼籍3人)のうち、約半数の25人の出席が予定されており実に嬉しい限りです。卒業から42年を経てなおこれほどの人数が集まる要因は、担任であった千葉洋先生の个性的かつ今も変わらぬ熱血な人柄と、主に仙台在住の有志たちが地道に連絡の労を取ってくれたことに因るものです。

東京岩高会の今年の新年会で佐藤副支部長は挨拶で、要旨「岩高でたった3年間、共に過ごしただけなのに、その後長きに亘って同窓生として交誼を結んできたのは同窓会の存在に因るところ大なるものがある。」と語っておられます。同窓生、同級生と交誼の範囲は違っても蓋し名言と言えます。

たしていいからと思います。



千田 海斗
平成26年卒



小野寺 和樹
平成27年卒

岩ヶ崎高校を卒業して早くも2年が過ぎようとしていた昨年末に、私たちは初めて東京同窓会に参加させていただくこととなりました。地元から離れて生活する私たちにとって同窓会は高校時代の友人や先生方と再会する貴重な機会です。しかし、楽しみにしている一方で、岩ヶ崎高校を卒業された幅広い年代の先輩方との交流に多少の緊張を抱えてもいましたが、会場に着くとそのような不安は不要であった事がすぐに分かりました。先輩方に優しく話しかけていただき、私たちの緊張は解け、世代は様々ですが、岩ヶ崎高校のことや地元の話題で盛り上がる事ができました。こうした経験は私にとって大変貴重なものとなりました。それは、地元から遠く離れ生活していてもこうして同窓会で集まることによって、岩ヶ崎高校の伝統や文化を共有し伝え守っていることに気付く事が出来たからです。そのためにも私たちは上の世代から下の世代へと繋げる役割を果



小野寺 森人
平成27年卒

今年は大学2年生を迎え、自分自身も今年20歳を迎えるということ年齢上は大人となるので、これまで以上に自分の将来への、行動への責任と共に自分の夢へ少しでも近づくことのでき

さて、現代社会は情報リテラシーとしてインターネットが当たり前の時代になり、ツイッター(Twitter)やフェイスブック(Facebook)などのソーシャル・ネットワー

ク・サービス(SNS)も汎用されています。岩高同窓会仙台支部でもFacebookページを開設しています。私もFacebookのユーザーですが、宮城県立岩ヶ崎高等学校という公開グループページを含む各地の岩高同窓生18人がメンバーになっています。東京岩高会でもFacebookページを開設すれば、年1回の会報を補完する情報の発信・交換ツールになるのではと期待しています。

最後に、私事ですが、今年4月に岩手県の任期付職員(土木職)として採用され、大船渡市の県の事務所で勤務しております。学生時代と卒業後の初任地として約6年間を岩手で過ごした関係から、宮城県出身者ながら岩手にも深い愛着を感じており、大船渡の地で震災復興に微力ながら貢献できればと気持ちを新たにしています。

る新年度にします。

高橋 優花 平成27年卒

こんにちは、ご無沙汰しております。平成26年度卒業生の高橋優花です。こちらは2年になりました。授業数が増え、サークル活動も中心になり始め、日々忙しくも充実しています。暑気払いへのご招待、ありがとうございます。しかし、テスト期間のため多忙が予想されるので、欠席させていただきます。楽しい会になることを、山梨から祈っています。それでは、失礼いたします。

高橋 亜実 平成27年卒

お久しぶりです。暑気払いの件ですが、翌日から定期試験が始まる為、欠席させていただきます。

千田 清乃 平成27年卒

お久しぶりです。7月30日はテスト期間のため都合が悪く、行くことができません。残念です。連絡ありがとうございました。

千葉 いぶき 平成28年卒

こんにちは。暑い日が続きますがいかがお過ごしでしょうか。この3月に卒業いたしました千葉いぶきです。ご連絡致しますのが大変遅くなってしまい申し訳ございません。先日、築高同窓会で佐々木支部長さんにお会いした氏家ゆうかさん(築高卒)から連絡をいただきました。11月の同窓会に参加させていただきます。たいと思ひご連絡致しました。



平成27年卒歓迎会 キャプリスにて



東京岩高会平成28年新年会にて(同窓生で琵琶奏者の熊田かほりさんと) 「還暦祝いの会」準備のため集まった同級生(平成28年1月9日 於仙台)

今夏8月13日は秋山輝吉選手を 応援しましょう

岩ヶ崎高校の校門を入るとハナミズキが咲き誇り、正面には「2016年リオデジャネイロオリンピック出場射撃ラピッドファイアピストル秋山輝吉選手平成2年卒」と懸垂幕(同窓会提供)が掲げられています。平成28年4月27日岩ヶ崎高校・同窓会主催による壮行会が体育館に於いて挙行されました。全校生徒、教職員、同窓会役員、PTA役員そして前校長高橋義典先生が勢揃いされました。生徒会が中心のとこ、男子生徒の司会進行です。午後1時10分秋山選手は大拍手に迎えられ凛とした姿勢で入場されました。始めは新任の吉田玲子校長先生のご挨拶にて秋山選手のご紹介がされ、続いて葛岡重利同窓会長の喜びのご祝辞、東京支部佐々木くに子の子の応援の辞、そして生徒代表による壮行の辞と進み、岩ヶ崎高校初めての世界の祭典オリンピック出場者誕生とあつて喜び一杯の激励の辞が続きました。

いよいよ秋山選手のお話です。「かきくけこ」に託して、感謝、気遣い、くじけない、献身、向上心を大切に、日常的に実践されて今日に至ったのだと感じ受けました。皆は秋山選手のお話一点に集中し、見つめる生徒たちは憧憬の眼差しで聴いておられました。秋山選手を讃えて、会場内は終始たつたままで厳かな壮行会となりました。会の後応接室にて懇談の際に寸分の差、いやミクロの差の競技であること、「8秒間に5発射つ」競技の厳しさを話して下さいました。取材陣としてテレビ局3社、新聞社が入られ、当日夕方のテレビニュースに流れ、翌日の新聞誌上に掲載されました。今年の夏8月12日13日は眠い目を擦りながらも、岩ヶ崎高校卒業生初のオリンピック選手誕生、栗駒姫松出身秋山輝吉選手を地球の反対側よりしっかりと応援いたしましょう。佐々木くに子



射撃のラピッドファイアピストルとは

25メートル先の的に銃を放つ速射。8秒、6秒、4秒間で、それぞれ5発撃つのを2回繰り返し、それを2日続けて計60発の合計得点で上位6人を決める。6人で争う決勝は4秒射を行い、予選の得点は考慮されない。得点は小数点第1位までが反映され、9.7点以上のヒット数で競う。4回目以降、得点が低い者から1人ずつ脱落し、8回目で優勝者が決まる。

世界記録 / 日本記録

25m ラピッドファイアーピストル

	記録	名前	日付
世界記録	591	Alexei Klimov (ロシア)	2006/10/6
世界記録	591	Christian Reitz (ドイツ)	2008/5/28
日本記録	588	秋山輝吉	2007/11/9



60周年を迎えるにあたり



女学校として創立され、岩ヶ崎町立より宮城県立と変遷が見られます。岩ヶ崎高等女学校校歌作曲は土井晩翠氏(荒城の月作曲)により、現在の母校々歌は白鳥省吾氏(築館出身)作詞、信時潔氏(海行かば作曲)作曲

とその時代の人物史よりも歴史の重みを感じられます。

会への会員参加の増加を掲げ役員会のテーマでした。会報は「繋がる手段」として菅原正雄幹事に要請し手作り編集に挑んで頂きました。会は基調公演を引続き、第五六回より還暦祝いを企画し、第五九回総会では、念願であった新人たちの参加が実現しました。母校の先生方のご協力を頂き大感謝でした。

東京岩高会の今は、「若人に繋げる同窓会」に力を注いでおります。昨年

東京岩高会は、昭和32年に、昭和26年卒の先輩方により創設され、本年は、60周年という記念すべき年を迎えるに至りました。当会は不安に駆られながら上京する後輩達のために、若冠24・5歳の先輩方が創設され、当時

平成20年秋の総会を控えての六月の頃でしたでしょうか、前支部長熊谷英雄氏は「いかなる難攻不落な名城も見事に陥落した」と過大評価をして、同級生の私に次期支部長を譲り渡したので

母校を取り巻く現状は、少子化問題に苦慮しておられます。その中でも、東京岩高会よりの願いを聞き入れて下さり、平成二十七年三月卒業の上京者との顔合わせを同窓会入会式々典の後に設営して下さり、二八年三月卒業生に於いても卒業式を控えてのご多忙の時間を割いて顔合わせをさせて頂いて

以来、後継された支部長様各位の自主的な活動のご尽力あり、また、惜しみ無くご協力、ご支援を下さる会員の皆さまありて存続されていることに感謝の気持ちでいっぱいです。

第五二回総会に於いて、自称岩高長男坊の栗原孝允先輩より「女性船長

個々への同窓会情報はなかなかの難儀です。母校の対応に感謝して今後にもご協力をお願いし諦めずに取り組んでまいります。

同窓会の母体となる岩ヶ崎高等学校は創立75周年になります。岩ヶ崎実科

佐々木丸の出帆」と勢いの風を頂きスタッフは一丸となりました。やはり、総

母校岩ヶ崎高等学校はスポーツでもニュース満載です。昨年のご存知の

本誌の発行にあたり、ご寄稿をいただいた方々、広告ご賛助をいただいた方、そして記念事業基金へのご支援者のたくさんの方々には厚くお礼を申し上げます。

思い出すままに60年



小野寺 喜美夫
26年卒
第2・6代支部長
尾松出身
千葉県在中

同窓会も60年、還歴の記念すべき年、誠に御出度うございます。

同窓会発会のいきさつを知る人も少なくなつて来たと思われるので、発会当時の記憶をたどり、思い出すまま記してみた。

昭和31年の晩秋、お茶の水駅付近のとある某邸に後輩のM氏と3、4名がはじめて集合して久しく語り合った。

その中に同窓会の話が持ち上がり、同窓会のないのが残念となつた。しかし、M氏たちは大学卒業と同時に就職が控えており、真剣に話には乗つてこなかった。

そこで、職についていた自分が同窓会について考えるようになってしまった。

初めに同期の3、4人と話し合い「共に同窓生が東京の片隅で気易く、寄り合い昔を、今を、そして明日を語り合うこと」をスローガンとし、私と同期の岩淵克、栗原孝允（故人）、後藤信男（故人）、八十島信治氏の5名が発起人となり同窓生の所在、住所の把握確認から始まつた。

東京岩高会 設立六十周年にあたって



伊藤 七郎
昭和26年卒
第11代支部長
尾松出身
埼玉県在中

岩高同窓会東京支部設立六十周年おめでとうございます。支部発足から六十年は会員皆様方のためまぬ努力の結晶とお慶び申し上げます。

設立当時の名称は「宮城県立岩ヶ崎高等学校同窓会 東京支部」と称して居ましたが、東京栗駒会が発足してから栗駒会の短絡な名称にちなんで、通称「東京岩校会」に変更し皆様方に親しまれています。設立準備当時は現在の様な便利な時代ではなく連絡も大変な事でした、尚更打ち合わせの場所を確保するのも難しく、発起人代表の小野寺喜美夫氏の勤務先の寮を確保して頂いた事が思い出されます。打ち合わせも仕事が終わつてからの集合、七時頃から九時頃までの打ち合わせ、時には焼き鳥で…よくも続いたものだと思ひ出されます。

設立当時は春の歓迎会、秋は総会と二回の開催で、場所は新宿御苑・または浜離宮公園が主でした、開催日の天候が心配で

当時は電話も思うように使えず連絡が容易にできず手間どつた。それでも30、40人の確認をすることができた。そこで同窓生の住所と同総会発起趣意書作りから始まつた。平行して同窓会本部の会長（飯田校長）にまず電話でその旨を熱く申し上げたが、本当に、継続していけるのか等の心配ではつきりした返事はいただけなかった。改めて32年8月30日に発起人会を開いた。

そこで、同窓会設立趣意書と決議文まで作成して本部に送付し、ようやく了解をいただいた。同窓生には、趣意書と総会案内、確認した同窓生住所録等を同時に発送して安心。

それまでの準備には相当の時間と心の不安があり、果たして何人の賛同者で設立総会が成立するか心配の日々であつた。

当時はパソコン等もなく、職場のタイピストさん（仙台出身）に暇を見て内緒でタイプを頼んだり、また、住所録の変更・追加の度にみんなでガリ版刷りをした事、印刷等は職場で土曜日の午後を利用した事などが思い出される。

第二回目の結成総会が港区本芝会館（32・10・13）で行われ、支部長には八十島信治氏にお願いした。参加者は32名であつた。

その時は本当に肩の荷が下りた様な気分

役員方大変苦労された事が思ひ出されます。その後は衆議院会館・参議院会館等の場所をお願いして開催したものです。又当時会の名簿が無く連絡に大変苦労した事が思ひ出されます。

名簿の作成を急がれて居ましたが、財政難と作成に掛ける時間が少なく何年かを掛けて昭和四十七年八月に東京支部設立十五周記念として発行する事が出来ました。

同窓生の勤務する会社等に広告の依頼をしたり、同窓生に依頼をしたりで、何とか第一号名簿の発行が出来たものでした。

時代はアナログ時代、活字の打込はタイプライターが主でタイピストでなければ、なかなか思うようになかなかつた時代です。昭和四十五年頃より簡易なタイプライターが普及し始めたお陰で何とか作成できたと思っています。

岩高会も六十年の間に中弛みもあり心配をした頃もありましたが、四十周年頃から皆さんの努力と創意の御蔭で、現在の盛況な状態になつてまいりました、本当に有難い事と感謝している所です。成果結果はついてきます、今後も多くの会員の入会は望めなくとも、内容の充実した同窓会で、遷り変わる時代に即応でき、会員相互の絆を強く抱ける会になる様期待をし、又お願いをして終わりと致します。

分そのものであつた。

しかし、これからどの様に継続していくかの奥では心配そのもので、落ち着かない。

当時は総会を開く場所がなく困り果てていた時、友人からの話で場所の話を勇気をふるつて依頼した事も思ひ出される。

参議院会館を借りる事に話が決まり第二回定期総会（33・10・26）を開催した。

同期の堀 茂、伊藤七郎氏の二名が加わり、支部長として協力してくれてホットした。

次に思ひついたので、新卒業生の歓迎会をしたいと思い、学校へ連絡し臨時同窓会を開く事に決定。第一回臨時同窓会（34・6・21）も参議院会館で実施した。

しかし会員の中で参議院会館ではなるとなく窮屈との声があり、考え直すことにした。

第二回臨時総会（36・6・11）から新宿御苑で実施した。しかし野外での開催は天候が心配で前の晩は眠れぬほどの気かりであつた。

その後も臨時総会は二〇回程続き参加者も120、150名位になった。総会中途で雨となり日本青年館に駆け込んだりした事もあつた。

その後、春の臨時総会は新宿御苑から、浜離宮恩賜御苑に移して二回開かれた。

屋外での集会はみんな気楽で金もかからず、参加者も多く集まつたようでした。

東京岩高会への想ひ



伊藤 末治郎
28年卒
第9・13代支部長
尾松出身
東京都在中

創立60周年を迎えての想ひは、創立者であり育成者である昭和26年卒の有志、特に小野寺喜美夫、栗原孝允、伊藤七郎各氏の会創立のための自己犠牲的貢献と創立後長年にわたる会育成に対する想ひ、敬意であります。

弁護士登録を終えた昭和39年春、及川博子氏から臨時総会に誘われて参加するようになり、昭和43、44年及び同53、54年の支部長を務めました。会が産声を上げたのは昭和32年、当時は戦後であり、戦後の復興は東日本大震災に例えれば震災道路ができた程度で、東京へ出た同窓生は自分の生活の確保が精一杯でした。私が参加した頃の会は子供の時代です。出席した同窓生は孤独と寂しさを互いに癒していました。郷里は大いなる母です。郷里の香りを多分に身につける後輩を会に誘うことは自身の癒しでありました。悩める後輩のために最良の贈りものでもありました。

朝鮮戦争が長引き、日本の景気は上昇

定期総会は参議院会館から衆議院会館で続けられたが、事情により他の会場で開催される様になつてきた。

町村合併により栗駒町となった年には、岩高の校名が変わるかとなり、同窓会通信を借りて本部に問いかけた事もあつた。

また、永年校長として活躍された飯田校長の退職時には、東京支部として特別注目の校歌入りのオルゴールを贈り、感謝の意を表わしたのも思ひ出の一つである。

昨今の同窓会等には、同期では伊藤・亀井・佐竹氏と小野寺の4人となつてきたが、できる限り支援をしていきたいと思つている。

この原稿を記している間も断片的ながら脳裡をかすめてくる事が沢山あるが、紙面には限りがある。

今後「継続は力なり」を胸に秘めて進めて行かれる事を切望し筆をおくことにする。



飯田校長先生から
小野寺さんへ
お手紙

し高度経済成長となりました。市民生活は向上・安定し、よりよいものを求めるようになりました。会も同様、己の寂しさを癒すことから友と語り故郷を偲ぶものとなりました。生活の向上と共に意識が向上したのです。

私は20数年の間、弁護士関係の業務に専念し会とは疎遠でした。昨年東京に移住して再び参加しました。会の変貌に驚きました。会場は出席者で溢れ、熱気に包まれて人気役者の出演する小劇場の様相でした。同窓会本部会長、岩高校長等20名の来賓を迎え、80超の年齢から血潮溢れる新卒業生までの様相に重厚で歴史を感じました。新年会にも参加しました。特別講演が企画され、日本を代表する琵琶奏者熊田かほりさんの平家琵琶を聴けるではありませんか。祇園精舎の鐘の声…と琵琶を弾いては朗誦する。弦の震えが深い哀れを誘い、時には弦が切れるかと思われる激しい打音、平清盛の無念を彷彿としました。会が変わつたことを知りました。今の生活者は、衣・食・住に足りた高レベルの文化の中にいます。地域文化で懐かしみ、高文化に接した感動は友に会った時の話題です。充実した会は広がるでしょう。会と共に成長発展を遂げられた佐々木くに子支部長はじめ執行部の、時代に沿った会運営に敬意を表し、明日への希望を想います。



鎌田 正聡
35年卒
第14代支部長
尾松出身
東京都在中

東京岩高会は、昭和32年諸先輩の努力により設立され、既に60周年になるこのこと、同窓生の憩いの場と同窓会の交流の機会にもなっていると思う。時に参加の途中から、同級生とで中座し、別場所で宴会などをして、中々楽しいものである。ぜひ参加し、欲しい。

私は8人兄弟姉妹で、すべて岩高の同窓生で、5番目、両親はすでにいないが、いまでも兄弟会もしている。私は横浜で7年中学校の教師をし、その後司法試験に合格し、弁護士を38年している。

さて、私は、大の漫画ファンである。ノラクロや鉄腕アトムなどの時代から、現代マンガも見ている。三國志や、徳川家康など歴史

物の外、近頃は、家裁の人とかムシ医、真夜中のこじか、臨床医はなこなどや、現代経済・社会マンガを読んでいる。中々現代社会の細かく取材・監修されるなどしている物が出てくる。もともと現実性のないものや、荒唐無稽なものや刺激的物はない。人間

東京岩高会創立60周年 おめでとーございます



芳賀 康雄
37年卒
第8代同窓会
会長
栗原市在中

東京岩高会が創立60周年を迎えられますこと誠にめでとーございます。

心からお祝い申し上げます。
一口に60年とは申しませんが、発足時の昭和32年は戦後復興から高度成長期への時期でした。金の卵ともてはやされ、心に夢と希望を抱いて東京方面へ向かったことでしょう。

単身見ず知らずの地に赴き戦後の日本の復興と経済発展の源として、また現在の日本への発展に大きく寄与された先輩、同輩、後輩の各位に敬意を表します。

夢と希望に満ちてはいても、不安もまた大きかったことと思います。そんな状況下において、岩高同窓生が東京の片隅で、気安く寄り合う同窓の絆を求め、強い望郷の念に駆られて集まったのが東京における岩高同窓会発足の発端と聞いておりました。

望郷の念を抱く、いわゆる「岩高の

心理・社会・家庭問題の物はよく見、それにつき象徴的、癒し的に書いているマンガもあり、これはこれで癒されることが多い。漫画もばかにならないと思う。諸外国に漫画が翻訳・輸出されているのも理由があるように思われる。勿論絵本や辞典類にもかなりきれいなものがあり、さらには、受験参考書にも漫画チックなものもかなり出ている。根拠があると思う。NHKですらマンガ番組を相当やっているのも肯ける。

勿論私は、仕事のことがあり、年令としてはかなり本を読むほうかもしれない。学者ではないので、研究とはいかないし、専門書や、倫理や哲学書も読む。近時は、久しぶりにカントなども読んでいるが、日本の宗教の古典、日本の文学の古典も読み、昔の方々は、こんなことまで考えていたのかと感心し、驚く。中・高で名前だけをちよつぷりかじった古典で、まったく小難しいと思った本が、このごろ、ちよつぷりであるが、意味があると思えてきているのも不思議である。母校時代が懐かしい。

私自身は事件として、かなり種々の事件にタッチしてきた。オームの地下鉄サリン事件やいくつかの殺人事件、茨城カントリー事件、あぐら牧場事件など弁護したりしている。もともとこんな事件は、また起きないことを願いつつも、あと何年かの余生を生ある限り、種々タッチしてゆくのであろう。勿

長男坊」と自負する昭和26年卒である八十島信治、小野寺喜美夫、栗原孝允、後藤信男、岩渕克の5氏が発起人となり昭和32年に結成準備にあたり同年10月13日、港区本芝会館において23名の出席の下に結成総会が開かれたのでした。

昭和26年卒の先輩方は、岩ヶ崎高等学校が「昭和の学制改革」により新制高校「岩ヶ崎高等学校」と改称された昭和23年4月に男女共学制の第1期生として入学した方々で、まさに自称に値する「岩校の長男坊」なのです。

小野寺、栗原両氏は、今なお現役で会を盛り上げ、牽引されておりましたが、痛ましいことに栗原孝允先輩におかれましては、精魂込めての闘病のうち去る2月10日御他界なされたと知りまして。お元気で共に60周年をお祝い出来る事を心に秘めておられたことと思います。ご冥福をお祈り申し上げます。

発足以来の東京岩高会の企画そして行動にはバイタリティーを感じさせる素晴らしいものがあり心から敬服いたします。

60年の歴史を誇る東京岩高会益々のご発展と会員皆様のご健勝をご祈念申し上げます。

論、弁護士が彼らのやったことが正しいなどとはまったく思っていないことを付言したい。そんなこんなも含めた意味でも、漫画本からでも、少しずつでも、社会の常識、人間の在り方、生き方を学びうることもあること、と、忘れないで行きたいと思うし、医者のお嬢や弁護士のお嬢、そしてさらにその子らにも田舎やわが母校を忘れないようにさせたい。

岩高創立50周年記念樹 花水木の想い出



菅原 一
31年卒
第16代支部長
岩ヶ崎出身
東京都在中

母校創立五十周年(平成三年)を迎えた記念にと、平成四年同窓会東京支部より「花水木の植樹」をすることに決まった。

植木の町、埼玉県安行へ苗木を探しに行き、紅白の樹木五本ずつを選んだ。苗木とはいえ既に蕾を持ち背丈三メートルを越す大きく育った物でした。二トントラックに斜めに立て掛け、しっかりと縛りいよいよ明日の出発に備えた。三月お彼岸の連休を利用して王子駅前を五人が同乗して出発。ぽかぽかの暖かい陽光を受けて東北道を一路ふるさと母校へと向かう。

第二のふるさと岩ヶ崎



岡崎 智徳
第13代学校長
(S62/04～H元/03)

昭和32年に設立された「東京岩高会」が今年度60周年になりますことおめでとー御座います。会が長年月にわたり、ゆるぎなく継続してきたことは、会員各位の熱意、各年度ごとの役員の方々の並々ならぬご尽力の賜物と厚く敬意を表します。支部設立の動きがあった同時期頃、昭和29年3月早々就職先がまだ確定してい

なかった塩釜の小生宅に突然、飯田校長先生が訪れた。岩ヶ崎高校生物科教員に欠員が生じ、その補充を知り合いの東北大、理学部生物学科卒業予定の私が候補となったと、後日知った。飯田先生は、県最

北端の岩ヶ崎という城下町のこと近隣に築館高、築館女高、若柳高、栗原農高があり、それら名門校に負けぬ岩ヶ崎高校にしたいと熱く語られた。私は、種々熟慮の上、着任の意思を固め、4月、晴れて岩ヶ崎高校新任教員となった。以後、31歳までの9年間と昭和62年4月、同校第13代校長に任命され勤務した2ヶ年間の合計11年間

翌朝の植樹当日、目を疑った。見渡す限りまっ白。朝方から天候一変。見る見るうちに岩高のグラウンドは三十センチを越える大雪と化した。事前に手配していた地元JAのバックホーンで穴を掘っていただきお陰でスムーズに植樹作業が一時間足らずで終えることが出来た。あの雪と寒さの中で、千葉弘頭校長先生を始め、本部五十嵐重太郎同窓会長や役員の皆さんに東京の役員七人で植え付けました。あの花水木の想い出は一生忘れることが出来ない。厳寒に耐えた苗木は、五月には見事に紅白の花が開き咲いてくれた。毎年の桜の花が終ると間もなく、岩高のグラウンドには可憐な花を咲かせている。あれから二十五年も過ぎて今では樹木も太くなり、校門を登下校する岩高生を優しく見守っているのでしょうか。



平成4年 花水木植樹 毎年咲き誇る花水木

にわたり、岩ヶ崎高校にお世話になった。私の教員在任期間は38年間(初任く60歳定年)であつたので岩ヶ崎高校との関わりは、長かった。昭和38年4月、塩釜の親の体調に不安があり、長男である私は親元から通勤可能な仙塩地区に転任せざるを得なくなり、宮農高に着任、以後仙二高、仙三高を経て教頭に任命され、二つの高校に勤務した後、校長として岩ヶ崎高校に再着任となったのでした。思えば初任の昭和29年秀麗栗駒山を見渡せる高台に建つ岩ヶ崎高校に胸躍らせて就任し、生徒たちの学業に対する意気込みに感動し、力の限りやるぞと決意したのであった。

飯田先生の集められた教職員のレベルは高かった。外地の重要ポストで働き、終戦で帰国された実力者が何人かおられた。若輩の私は教えられることが多かった。人々の生活はまだ安定していなかった。物資不足で日常のはきものは下駄で洋服もなかなか手に入らなかった。給料も安かった。飲む口を持った私だが、清酒は高価でなかなか入手できなかった。週1、2度、一升、百円程のドブクロ購入を下宿のおばさんに頼み、ご主人等と飲んだ。テレビはなかった。その年の暮れ、下宿近くの電機屋さん、台入荷し大変高価と聞いた。夕方、放映するということで見に行った。たくさんの人々が集まっていた。台上に箱型テレビ

が設置され、短時間「雑踏の中の人々」などが白黒画像で放映された。集まった人達は、フィルムを使わない電波で流すその映像に驚いた。夜、時々生徒がやって来た。大人っぽいわ者もいて、政治、経済、教育、異性問題など多方面にわたり議論した。休日やつて来た生徒に、近くの山にキノコ探しに誘われたりした。中には、軽部川下流で、隠れ穴のフナを手掴みで捕まえ、堤防上でバケツを持った私に投げ渡した猛者もいた。先生方の致団結と生徒の努力で岩ヶ崎高校は、進学と就職で好成績をあげ近隣の伝統校とほぼ互角であった。東大卒の学究である飯田先生は大人格であった。静かに教員や生徒たちを見守っておられた。時々息抜きに校長室に顕微鏡を持ち込まれ、「植物組織片」を覗かれていた。例年、年度末に校長先生宅で職員慰労会があった。本物の清酒をたらふく飲んで若い教員は酔いつぶれた。名門女子大卒の校長先生の奥様は、自宅で無報酬で近隣小・中生に英語を教えたり、ネギなどの野菜を栽培し、町内の若手教員宅に配られた。私はこの地で結婚し長男、次男に恵まれた。妻は、町保育所保母として勤めた。後年、産業構造の大変革が起こり「細倉鉱山」は閉鎖され、あのにぎわいの町は過疎化し、栗原鉄道もバス代行となり、地区は目に見えてさびしくなった。県

内第1の面積を持ち、米作りと畜産で名を売ってきた栗原市であるが少子・高齢化や働く場所を求めている若い人たちの都市部への移住等により、人口は減少し、小・中学校は縮小化され、地区の名門高校のいくつかは姿を消した。この先、岩ヶ崎高校は大丈夫なのか、私の気がかりの大きな一つである。働く所、安らぐ所、ぜひ行ってみよう。化くい止めのため、最近、市当局による定住促進の宅地分譲が計画され、実施が始まったとの報道もあった。広大な土地を持つ、穏やかな栗原市である。今後、大規模な果樹園造成、各種企業の誘致など考えられる。果樹園が安定すれば青果場が必要となり、加工場も立地する。鳥沢諏訪前の某氏は、各種果樹の試験栽培を長年

は、日本人の誰にも周知されている、あの有名な「尾瀬ヶ原」に比し見劣りするとは思わない。隣接する楊石山(869m)と一体化した名所の出現を願うものである。2016年4月16日の新聞報道により、栗駒山麓が、自然や地質を生かした自然公園(日本ジオパーク)に認定され、「栗駒山麓ジオパーク」が誕生したことも知った。以上、思いつくまま栗原再成への課題のいくつかをあげたが、あくまで私は素人であり、その道の専門の方々の知見を得て、とにかく、地区再生の取りくみを始めて欲しいと思う。

最後になりましたが、佐々木(く)会長さんの強い要望により、なんとか纏めることができました。文中いたらぬ所お許し下さい。



本部同窓会にて(平成5年) 前列右から3番目 岡崎 元校長先生



岡崎元校長先生から佐々木支部長に送られた絵葉書(ご本人による絵筆)

至高の岩高を思いつつ



大畑 典子
第21代学校長
(H20/04～H22/03)

東京岩高会の皆様、お久しぶりでございます。会の創立60年、会報58号とのこと、まことにおめでとつございます。皆様の岩高への強い愛を感じます。

言うまでもなく、岩ヶ崎高等学校は、昭和16年開学し、女学校から高校へ、そして県立高校へと移管し、昭和26年6月には現在地に校舎ができて移転するという貴重な変遷を経て現在に至っております。(その6年後には早くも東京岩高会が発足していることになります!)向学の志やみがたく、苦労を厭わず学びの道を切開き整えつつ通学した先人と、一から学校を創っていったこの土地の人々の尊い意志・技・姿を思うとき、胸が熱くなるばかりです。

この宇宙は無から創成されたという魅力的な仮説がありますが、宇宙のこととはさておき、生きることの苦労に満ちた時代に学校をゼロに近い状態から創るのは、事実、困難なことだったと

想像します。正当な権力をもち財力の有効活用が可能な立場の殿様やお上の決定で末広がりに始まったわけではなく、小学校の施設の一部を借りて創始されたとのこと。そのような難業がどうして出来たのか。それとも、かほどの難業ではなかったのか。可能ならタイムスリップし当時の人々にお会いして、その貴重ないきさつやお話を直接伺ってみたいと思います。でも、昔の人々は慎み深く、苦労話はスキップし結果だけを話すに留めるかも知れない。

岩ヶ崎高校を離れて6年が経ちました。折りに触れ岩高に思いを馳せると、清々しく希有な独特の空気が香ります。私にとり岩高は、現在過去の人と物のすべてを含め、金といふ銀の底光りと透明度の高い石英を取り混ぜたような例えのような至高の存在です。建学の精神「尚志育英」の岩高の教育に私ごとときがかかわらせていただいたこと、喜びであり誇りに感じております。



岩ヶ崎高校の萩



伊藤 芳春
第22代学校長
(H22/04～H24/03)

岩ヶ崎高校の玄関を入ると左手に「思い出の校舎」という大きな絵があります。昭和五七年美術部員の制作と銘板に書かれています。絵には旧校舎が描かれ、教室の窓の下には萩が満開に咲いています。

があります。道路斜面の保護、治山、砂防など環境保護の緑化資材として活用されています。萩の成長と共に両校舎が協調しそれぞれの特徴を発展させていくことを願っています。

星の話です。実は、私は1989年に「かみのけ座IO」星と名付けられた星を岡山の友人とともに発見しています。約53日に二回暗くなる食変光星という星です。1年ほど前スイスの人から、この発見は怪しいのではないかと疑惑がもたれました。とうとう来たかと思いました。普通の周期の数倍以上観測して発見が確定するのですが、観測したのは一晩だけからです。怪しいですね。発見のいきさつは、ケンブリッジ大学のグリフィン先生から日本の深夜に暗くなると予想される星があるので観測してほしいという依頼がありました。そこで宮城と岡山で独立に観測したところ予想どおり暗くなり、結果を論文に書きハンガリーの天文台から発行され発見者となりました。今年、疑惑を晴らすために観測をすることにしました。この星の観測条件がいいのは年に二回程度です。計算したところ4月19日の23時45分頃に暗くなることがわかり観測の協力を呼び掛けるところ、何とか天候に恵まれ私を含め国内6人が観測に成功し、正しいことが証明されました。二安心です。

画竜点睛



蘇武 徳行
第23代学校長
(H24/04～H26/03)
鷺沢出身

東京岩高会六十周年誠におめでとうございませう。佐々木支部長様をはじめ歴代の支部長様及び事務局のご尽力に敬意を表します。

私は、平成二十四・二十五年、岩高に勤務させていただきました、二十六年三月に定年を迎えました。平成二十四年の三月、県教育長から「岩ヶ崎高校に異動」との内示をいただいた時の驚きと、その感動は今でも鮮明に脳裏に焼き付いています。

母校での初めての勤務という期待に満ちたなか、生徒・職員、多くの同窓生の先輩・後輩そして保護者の方々に支えられ、励まされ、二年間の職務を全うできました。改めて、感謝と御礼を申し上げます。

振り返ってみますと、私が在校していた頃と変わらず、落ち着いた雰囲気の中、生徒達も先生方も学業に部活に一生懸命取り組みました。授業中の生徒達の背筋の伸びた授業態度を見るたび、その真剣さが伝わってきました。生徒達が何事にも一生懸命に取り組む姿は私の大きな自慢であり、誇りでありました。伝統行事である歩大会では定期的に、熊の出没も危惧しましたが、保護者の方々の全面的な協力で無事だったことや栗駒中学校の先生方と岩高の先生方との情報交換会を企画し、岩高の理解を深めてもらうなど、地域や保護者との絆を大切にする取り組みも懐かし

く思い出されます。

また、八月の同窓会総会には多くの先輩、後輩、そして千葉輝夫先生をはじめ多くの恩師の先生方の参加をいただき、会場が溢れんばかりの盛況ぶりは、感動と感謝の気持ちとして忘れることはできません。

さらに、十月の東京岩高会総会の参加者の多さにも驚かされました。初めてお会いする先輩方や懐かしい方々にもお会いでき、母校への熱い想いと期待が伝わり、とても有意義な時間でありました。

なかなか若い時は同窓会の存在が実感できないものです。しかし、年齢とともに、人と人との繋がりが多くなると、同窓生の関係が大きな力になります。岩高の卒業生であることに誇りを持っていきましょう。

同窓生の皆様の益々のご健勝をご祈念申し上げますとともに、今後も岩高の発展のために同窓生が力を合わせていきたいものです。

感謝



高橋 義典
第24代学校長
(H26/04～H28/03)
鷺沢出身

東京岩高会設立六十周年を迎えましたことを心からお祝い申し上げます。また、東京岩高会報第五十八号の特別号としての発刊、誠にありがとうございます。

この春までの二年間、佐々木くに子支部長さんをはじめ、東京岩高会の皆様には大変お世話になりました。皆様からの学校運営への協力、ご支援に衷心より感謝申し上げます。

さて、この二年間にも色々なことがありました。その二点目は、鷺沢校舎の創造工学科が平成二十八年年度から募集停止となったことです。入学者数が少なかったことによる県教委の決定とは言え、鷺沢工業高校から引き継いだ創造工学科が開設から十年に満たない時期に募集停止となることは誠に残念でなりません。創造工学科の生徒達が、ものづくりコンテストや各種発表会、イベント等で活躍しております。また、電気工士をはじめ、各種資格試験等にも合格し、社会での活躍も期待されております。今後、創造工学科の機能を迫桜高校に引き継ぐことになっておりますので、企業のニーズにも、地域のニーズにも応えられるものになって欲しい

と願うばかりです。

二点目は、体育館の改築工事は設計が完成した段階でストップしていましたが、平成二十八年年度予算に二十九年度の体育館解体を前提として解体工事の設計費用が計上されたことです。予算が順調に付けば、三十年度に改築工事が始まることになります。想定される工程表とおりの工事の着工と完成を願うばかりです。

東京同窓会に参加して



秋山 賢悦
岩ヶ崎高等学校
教諭
(S61年卒業)
片子沢出身

昨年の東京同窓会に参加し、久しぶりにクラス担任をした卒業生と再会した。長期休業毎に岩高に顔を出してくれる人もいたが、卒業以来会っていない卒業生もいて岩高時代と違う姿に驚きを隠せなかった。

思い起こせば3年前に岩高同窓会に参加した際に、佐々木東京支部長さんから東京同窓会に若い卒業生を集めたいという話があり、当時3年生のクラス担任をしていた私は、「20歳になったら、東京同窓会で会えたらいいですね」ということがきっかけであったと記憶している。その後、学年集会や卒業式後の最後のホームルームなどにおいて、「20歳を迎える年の東京同窓会で再会し、美味しい酒を飲もう」と話をしてきた。当日は、10名を超える卒業生が上野に集まって大変有意義な時間を過ごすことができた。関東方面で二人暮らしを経験し遅しくなったり、親のありがたみを感じていたり、お酒を飲んだりする姿などを見て成長を感じることができた。OB職員として、クラス担任として、二言では語り尽くせない数時間であった。私たち教員は、同じ高校に長く勤務することは難しく、転勤で学校が変わることも多い。たまたま母校に赴任して、尚且つ、東京同窓会において教え子たちとお酒を飲めるとは夢にも思っていま

ませんでした。

若い同窓生が東京同窓会へ集える環境が整いつつあるのではないだろうか。これを継続または発展させるためにも、参加すると何かメリットが与えていただけるようなことがあればいいのかなあと漠然と考えています。

最後になりましたが、東京同窓会に参加した教え子たちとこのような企画を受け入れていただいた東京同窓会の役員の皆様に感謝を申し上げ、文章を閉めたいと思います。

母校と私



古内 真衣子
古川工業
高等学校教諭
(H19/04～H26/03)
(平成8年卒)
文字出身

私は、教員生活二校目にして母校で働くことになり、平成十九年度から平成二十五年年度まで七年間お世話になりました。現在は大崎市の古川工業高等学校に勤務しております。

岩高に赴任してすぐに担任となり、慌ただしい中で母校の勤務をスタートしましたが、私が高校生活を過ごした同じ校舎で、同じ栗原で育った生徒とともに学校生活を送ることができ、とても恵まれていたなと、今になって感じています。

授業では、「数学」と「情報」の二教科を担当していたこともあり、授業や課外の準備、コンピュータの設定・調整などに時間がかかっていました。コンピュータ室が自由に使えることもあり、数学の授業で関数グラフソフトを活用し、少しでも理解が深まればと考え、試行錯誤しながら授業を行っていました。

部活動は合唱部の顧問でしたが、部員が少ない時にはピアノ伴奏も担当しました。ご多幸を心よりお祈りいたします。

三点目は、国公立大学合格者数が平成二十三年年度以来の二桁(十三名)となったことです。生徒の並々ならぬ努力があったことはもちろん、三学年と進路指導部の連携による戦略的な指導の成果であろうと思います。岩高の生徒は昔も今も極めて勤勉、誠実であります。また、文武両道、勉学にも、部活動にも一生懸命に取り組んでおり、二十六年年度の男子バレー部と卓球部シングルのベスト8、二十七年年度の野球部ベスト8など、部活動での活躍も顕著であります。

二十七、二十八年年度の二年間を振り返りましたが、平成二年に本校を卒業し宮城県警に勤務する秋山輝吉さんが、ラピッドファイアピストルという種目でリオ五輪日本代表に選出されたというニュースが飛び込んできました。早速、同窓会の協力をいただき懸垂幕を設置することができました。同窓生の快挙に、生徒・職員ともに大いに喜び、オリンピックでの秋山選手の活躍を願っているところです。

私はこの三月で定年退職を迎えましたが、生徒の活躍と東京岩高会の今後ますますの発展をお祈り申し上げます。

校内の分掌では、後半四年間総務部で同窓会の仕事に携わりました。役員の方をはじめ、多くの先輩方に支えられながら、同窓会報の発行、同窓会総会の準備、東京支部・仙台支部総会参加等、様々な経験をさせていただきました。東京支部の総会に初めて参加した時には、諸先輩方の母校への熱い思いや、熱心に活動している様子に頭が下がる思いでした。年齢は違っても同じ母校出身ということで、共通の話ができ、縦のつながりの大切さを改めて感じました。

この七年の間に、岩手・宮城内陸地震、大震災、創立七〇周年記念式典等の出来事があり、純朴な生徒とともに多くのことを学び、過ごした時間は、とても貴重なものになりました。最近では、社会人になった卒業生から、「目標としていた職業に就けました」との報告を受けたり、街角であった生徒や保護者の方から、近況や活躍している様子を聞いたりすることが増え、うれしく思っています。

最後になりましたが、岩ヶ崎高等学校の益々のご発展と同窓生の皆さまのご健勝とご多幸を心よりお祈りいたします。



岩高同窓会臨時総会
昭和36年6月11日（於新指原荘）

昭和36年6月11日 臨時総会



昭和36年8月 本部総会



昭和36年10月15日 総会



昭和36年8月 本部総会 体育館にて



我が母校



東京支部のはじまり

昭和32年10月13日 結成総会



若かりし栗原さん、小野寺さん



昭和33年10月26日 第2回 定期総会



昭和35年8月14日 本部総会

目で見る60年の歩み
32年〜40年



41年
〜
60年

昭和42年10月22日
十周年記念総会

昭和43年10月27日 東京支部第12回総会



昭和45年5月17日 於:日本青年館



昭和46年5月30日 臨時総会



昭和45年5月3日 ハイキング



昭和38年5月26日 臨時総会

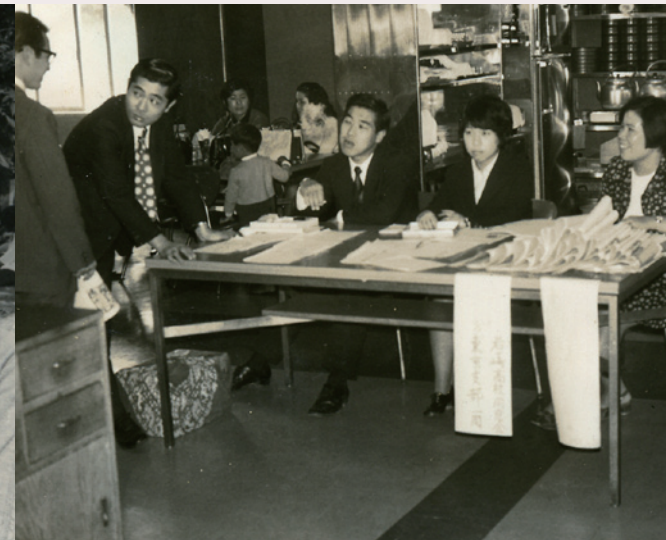


昭和39年4月19日 ハイキング 小野寺さん、栗原さん





マジック



昭和46年10月17日 第15回総会(受付)



昭和47年5月28日 臨時総会



昭和47年10月22日 第15回 定期総会



昭和47年5月25日 臨時総会



総会打合せ中の栗原さんと伊藤七郎さん



平成5年10月31日 第36回東京岩高会総会

平成5年10月31日 第36回 東京岩高会総会

61年
〜平成
26年



平成7年10月29日

平成7年10月29日 第38回 東京岩高会総会



平成8年10月24日 第39回 岩高会同窓会東京支部

第39回
東京岩高会総会



平成9年11月16日 第40回総会

平成8年10月24日 第39回 岩高会同窓会東京支部



第40回 東京岩高会総会



昭和58年 新年会



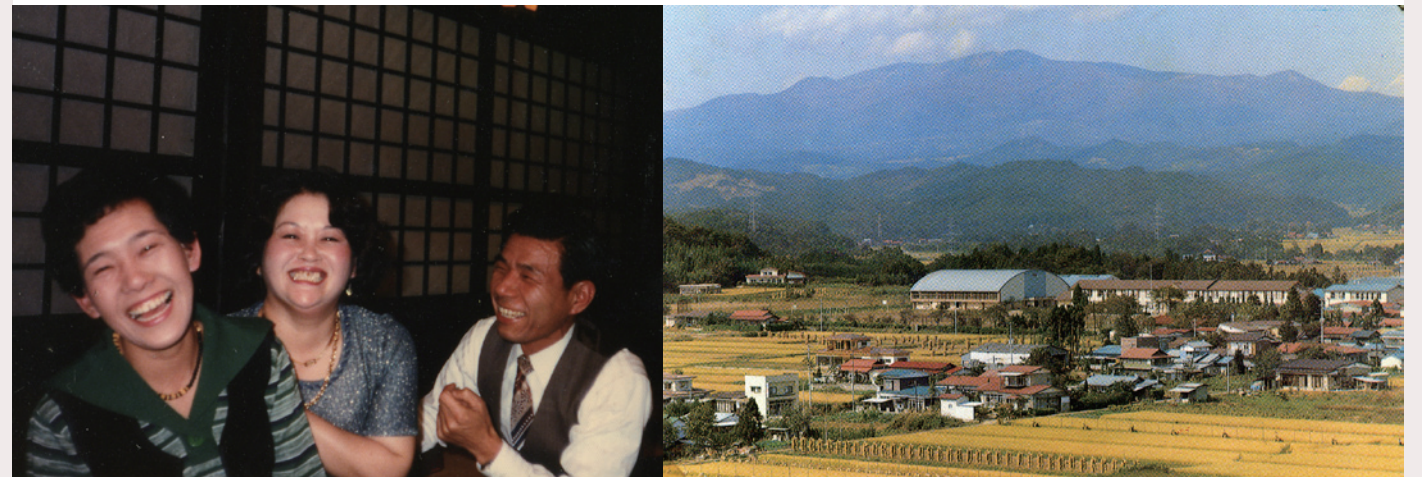
昭和50年10月26日 第19回総会



昭和54年5月 臨時総会



昭和54年10月7日 総会





28年卒のスピーチ



受付の様子



熊田かおりさん(H15年卒)と熊谷前支部長

熊田かおりさんによる初めての琵琶演奏



高橋聖さん(S52年卒)による司会進行



吹奏楽部の在校生

吹奏楽部招へいしての演奏



26年、37年卒合同懇親会 平成11年2月13・14日遠刈田温泉にて



懇親会の様子



26年、37年卒合同懇親会 会場は佐々木くに子支部長の別荘

平成28年6月30日現在

No.	学年	氏 名	No.	学年	氏 名	No.	学年	氏 名	No.	学年	氏 名
1	26	小野寺 喜美夫	29	36	穂積 宏哉	57	38	大関 信輔	85	48	浅野 和優
2	26	佐竹 章	30	36	袋 幸男	58	39	佐々木 元子	86	48	密島 眞夫
3	26	伊藤 七郎	31	36	小畑 丈夫	59	39	蘇武 昌三	87	48	澤田 由紀子
4	26	亀井 栄利	32	36	菅原 富夫	60	39	芳賀寿正	88	48	千葉 正宏
5	28	伊藤 末治郎	33	36	奈須野 栄子	61	40	桑原 盛一	89	48	本田 みき子
6	28	早坂 章治	34	36	濁沼 松郎	62	40	谷川 桂子	90	48	岩崎 哲雄
7	28	小野寺 美代子	35	36	加藤 旭孝	63	40	小山 ハルミ	91	48	梶本 啓
8	28	及川 博子	36	37	鈴木 晃	64	41	蘇武 巖	92	48	宇佐美 弘子
9	28	吉野 玲子	37	37	千葉 昭一	65	42	宮本 洋子	93	48	佐藤 久恵
10	28	高橋 昭三	38	37	吉野 久子	66	42	佐藤 美喜子	94	49	松田 清子
11	29	鎌田 匡之	39	37	伊藤 克侑	67	42	小川 晶平	95	49	熊谷 ふじえ
12	29	藤代 實	40	37	安川 ムチ子	68	42	高橋 秀男	96	49	菅原 由美子
13	30	白鳥 吉幸	41	37	佐々木 くに子	69	42	河合 礼子	97	50	菅原 俊雄
14	31	高橋 貞子	42	37	津田 久子	70	44	伊藤 税	98	51	古舘 芳子
15	31	菅原 一	43	37	阿部 長生	71	44	佐々木 敏行	99	52	高橋 聖
16	32	高橋 東三	44	37	木下 峰子	72	45	高橋 初美	100	52	鈴木 節子
17	32	鈴木 俊之	45	37	須田 陽子	73	45	大木 貞子	101	53	富田 早苗
18	33	木名瀬 五百子	46	37	太宰 東臣	74	45	伊藤 初雄	102	53	長沼 和秋
19	34	千葉 辰夫	47	37	高松 武巳	75	45	後藤 仁	103	53	高橋 良哉
20	34	清田 泰子	48	37	真保 清美	76	46	山本 信子	104	H1	武内 里恵
21	34	石井 紀子	49	37	結城 家寿子	77	46	佐藤 政弘	※敬称略		
22	35	鎌田 正聰	50	37	熊谷 栄子	78	46	浅野 弘巳			
23	35	高橋 嘉紀	51	37	高橋 道彦	79	46	佐藤 猛			
24	35	須田 和恵	52	37	菅原 武人	80	46	菅原 正雄			
25	35	菅原 幸二	53	37	吉川 とみ子	81	46	三浦 正志			
26	35	菅原 千恵子	54	38	只野 和夫	82	46	芳賀 進			
27	35	岡本 昭雄	55	38	二川 陽子	83	47	和久 充			
28	35	菅原 和彦	56	38	佐藤 次雄	84	47	菅原 修悦			

協力金・ご協力者名

第60回記念総会事業基金にたくさんの方々からご支援を頂きました。東京岩高会には60年を経た今でも強い絆が結ばれていることを実感しました。

ここに掲載した104名の方は、平成28年6月30日までにお振込み頂いた方々です。会報発送の都合上、上記期日の掲載となりました。この後にお振込み頂いた分については、総会当日の配布資料に掲載させていただきます。ご協力ありがとうございました。



おかげ様で60年!! NEXT若人たちへ!!

支 部 長	佐々木くに子	(S37 年卒)
副支部長	後 藤 直	(S46 年卒)
同	佐 藤 政 弘	(S46 年卒)
同	高 橋 聖	(S52 年卒)
幹 事 長	長 沼 和 秋	(S53 年卒)
監 査 役	鎌 田 正 聰	(S35 年卒)
同	鈴 木 晃	(S37 年卒)
会 計 部	山 本 信 子	(S46 年卒)
同	鈴 木 節 子	(S52 年卒)

幹 事	加 藤 旭 孝	(S36 年卒)
同	穂 積 宏 哉	(S36 年卒)
同	宮 本 洋 子	(S42 年卒)
同	浅 野 弘 巳	(S46 年卒)
同	菅 原 正 雄	(S46 年卒)
同	和 久 充	(S47 年卒)
同	千 葉 正 宏	(S48 年卒)
同	菅 原 由 美 子	(S49 年卒)

平成 28 年 7 月 30 日現在



第52回 東京岩高会総会



第54回 東京岩高会総会



平成18年1月21日 新年会



第57回 東京岩高会総会



平成23年5月17日 東日本大震災義援金寄贈 宮城県東京事務所にて 35年卒第59回 総会にて



栗原さんを偲んで

栗原孝允さんへ



飯田 正量 26年卒
岩ヶ崎出身 仙台在住

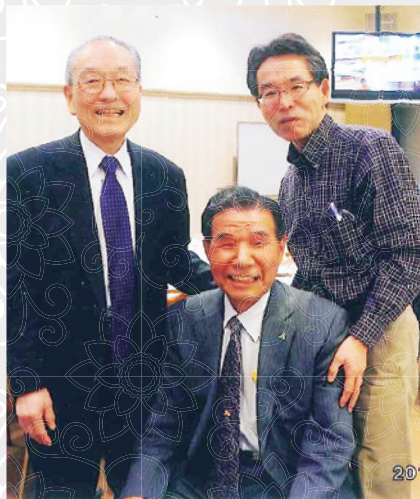
栗原孝允氏を偲ぶ



伊藤 七郎 26年卒

栗原さん、訃報を聞いて信じられなかったよ。旅立つのが少し早かったんじゃないの。今頃どうかのマラソンに行ってるかなと思っていたのに。妻に話したら、「栗駒山の山開きの時お会いしたけど、ニコニコしてとても格好のいい人だったね。」と言ったよ。そう言えば高校の時、テニス部の人みんな格好良かったからね。高校卒業後、岩ヶ崎駅で会わないと思ってたら、北海道に行つてその後千葉に行つてたんだね。東京の同級会や岩高会の立ち上げ、3回生の同級会のために尽くしてくれたこと忘れられません。有難う。特に印象深いのは遠刈田温泉での26・37年卒合同懇親会だよ。震災の跡見学に訪れた時にお会いしたのが最後になってしまったけど、本当にお世話になり感謝しています。ゆつくりお休み下さい。さようなら。

栗原さん なぜそんなに早く逝つて終つたんだ。私らとの約束より十年も早い。常日頃より俺は九十三歳まで生きるんだと豪語して居たのに、満八十三歳にも四十七日も残して、生涯を終るなんて、私等の中では誰も素直に受け入れられない、兎に角元気者の栗原さん、マラソン・ボウリング・ゴルフと人一倍の運動をしていたのに、総てをやり尽くしたのか？まだまだ思いは残つて居たとは思つが、私と故人栗原さんとは小学校・中学校・高校と一緒でした。高校卒業後は夫々の道に入つたのですが、昭和三十年頃より岩ヶ崎高等学校同窓会東京支部設立の発起人に加わり東京支部設立の頃が、楽しく希望に燃えた年頃であつたと思ひだされます。岩校同窓会東京支部も今年は六十年を迎えています、せめて六十年の記念



長沼和秋 53年卒

する日に得意のマジックでも！栗原さんいや「タカやん」総てを投げ打つてゆつくりと休んで下さい。もう会えぬ・言葉も交わせない「タカやん」。永い間色々の事があつたね、もう二度と会えない「タカやん」、さようならと言つて別れさせて頂きます。

兄貴のような栗原さん

私が初めて栗原先輩とお会いしたのは、卒業後間もなく上京した昭和53年6月の総会でした。その頃は、総会が春と秋に行われており、春は新卒者と同じ

窓生との顔合わせ式で、東京での新生活に不安を感じつつ、同級生の近況と故郷を恋しくなつていた時でもあつたので、大変嬉しい会合でした。集合場所はJR千駄ヶ谷駅前、3ヶ月ぶりではありましたが同級生の顔をみてホツとしたことや同郷の方々とお話できて、東京にいたことを忘れさせて頂いた一時でした。それからは、殆どの総会に出席させて頂き、先輩方との交流が始まりました。その頃、栗原先輩は40歳代で、お嬢さんが高校生だったこともあり、同じような年代の私によく声をかけてきました。38年前のことなので、何を話したか覚えてはおりませんが、よく「私の娘がね。」とおっしゃっておりました。恐らく、思春期のお子さんを抱える父親としてのお悩みを話したかったのかもしれない。大学卒業後は一旦東京を離れ、青年海外協力隊としてネパールとヨルダンに計4年間の海外生活を送り、再び東京岩高会に戻ってきたのが30歳の時、栗原先輩は既に50歳後半、走っていることをとても自慢げにお話されてお

(今の私のようで)、365日毎日走つておられました。その当時、栗駒で栗駒山から駆け降りる駅伝が行われており、何度か一緒に走ろうと声をかけて頂きました。暫く走ることから遠ざかつていた時で、素っ気なくお断りしたこと、今思えば、地元を走れるだけでなく、先輩と走れたこと、振り返ってみてもとても悔やまれてなりません。

いつか一緒に走りたいと思つていたところ、4年前の東京マラソンに栗原先輩は10キロの部、私はフルマラソンの部に出場することができました。近年のマラソンブームで東京マラソンは応募者が10倍を超える超人気の大会で、栗原先輩と共に当選したことに喜び、「レースではどんなウェアを着たらよいか」「ランナーが多いから接触しないよう留意しましょう」等の対策を話し合い、走つた後の反省会では「沿道の応援が多くて感動したよ」と、私達にとって大変思い出深い大会となりました。

兄貴のような栗原先輩や多くの先輩方とお会いして様々なことをお話しさせて頂いたことや高校時代から走つていたことで、人と人をつ結び付けてくれました。今ではこのことが私にとっての宝物となっています。



懇親会を盛り上げる仕掛け作りをしている栗原さん



平成27年 栗駒会総会 マジックを演じる栗原さん

平成26年6月 栗駒会総会で



S26年卒の方々



平成22年2月25日 穴戸ヒルズカントリークラブにて26年卒の面々
左より 伊藤さん、亀井さん、栗原さん、小野寺さん

安全と消防設備をお届けする

北都防災商事株式会社

〒270-0031 千葉県松戸市横須賀2-14-9
TEL (047) 345-1798 ・ FAX (047) 345-1655

「みやぎの環境にやさしい農産物」認証

くりこま高原米

栗駒山の清流で 食味特A

農業生産法人 有限会社くりこま高原ファーム
 〒989-5341 宮城県栗原市栗駒稲屋敷大尻6番地
TEL0228-45-2893 FAX0228-45-5425 URL <http://kougenfarm.jp/>

宮城・栗駒産 ひとめぼれ 高原米

東京岩高会60周年記念

東京岩高会60周年記念おめでとうございます。
 事務所が文京区から下記の足立区に変わりました。
 昨年4月10日「なせばなる」を日本図書刊行会から出版しました。子供の頃の郷里の生活、一念発起し「一心は岩をも通す」の諺どおり奮闘した道、老齡顧みれば「なせばなる」の心境に至った体験物語です。郷里の子供の教育に、子供の奮起に貢献できればと願っています。
 伊藤法律事務所所長 弁護士 伊藤末治郎(尾松出身)
 自宅兼事務所 〒121-0813 東京都足立区竹ノ塚1-37-13
 電話兼Fax 03-3858-0055

サインボード・サインシステム

株式会社アルテ

会長 吉野 玲子 (岩ヶ崎)
 〒116-0014
 東京都荒川区東日暮里5丁目30番9-403
TEL 03(6806) 5069

<ISO14000:2004 取得>
 — 環境に思いやり —
 金属スクラップ・リサイクル

株式会社 ハガ

栗原市栗駒中野田町西150
TEL0228-45-3421 FAX45-5300

↑ 栗原田町にある広大な敷地と工場全景
 代表：芳賀 恭 (S46卒・岩ヶ崎出身)

鶴ヶ飴 駒ゆべし 季節の和菓子

岡本老舗

宮城県栗原市栗駒岩ヶ崎六日町38
☎ (FAX) 0228 (45) 1052

代表：岡本 浩一
 昭和53年卒
 岩ヶ崎出身



**ITで実現できる
創造力を生み出すオフィス**

 理工事務機株式会社

会 長 亀 井 榮 利

(旧姓・門伝 鷺沢町出身)

代表取締役 亀 井 賢太郎

〒101-0064 東京都千代田区猿樂町2-1-14 A&Xビル
TEL. 03-3293-8955 FAX. 03-3292-0140

エレクトロニクスの総合商社

昭和電子機器株式会社

代表取締役 菅原 幸二 (津久毛出身)

〒145-0067 東京都大田区雪谷大塚町 9-5

TEL (03) 3728-4611 (代表)

FAX (03) 3728-4811

Eメール k-sugawara@showadenshi-kk.co.jp

POWER SUPPLIES 製造販売

代理店及び特約代理店

日 本 ケ ミ コ ン (株)
オ ー タ ッ ク ス (株)
日 本 光 電 工 業 (株)
モ レ ッ ク ス (株)
コ ー セ ル (株)
(株) 村 田 製 作 所
(株) 松 尾 電 機
(株) 松 尾 電 機
(株) フ ジ ソ ク
マ ル ヤ ス 電 業 (株)

その他 各種端子台

祝 東京岩高会 60 周年

東京栗駒会会長 加藤 旭孝 (36 年卒栗駒出身)

役員一同

創作中国料理
旦妃楼飯店



新しい風、上野へ。

本場上海から、話題の美食先進スタイル上陸！
中国伝統料理に、フレンチ、イタリアン、和食、薬膳などのテイストや
いままでにない発想を取り入れた、新感覚の中国料理 ニューベル・シノワ。